

## アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリーの著作と思想

梶堀 木綿子\*

### はじめに

1830年のフランスによるアルジェ侵入以降、アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリー(al-Amīr ‘Abd al-Qādir al-Jazā’irī, 1807/8-1883:以下アブドゥルカーディルとする)は、西部アルジェリアにおいて抗仏運動(1832-47)を指導した。その過程で、近代的な国家機構を整備し、抗戦相手であるフランスと協定を締結し、隣国のモロッコや英国等に協力を取り付けるなど外交活動にも力を注いだ。フランスへの敗北後はダマスカスに移り、同地でイブン・アラビー(Muhyī al-Dīn Abū ‘Abd Allāh Muḥammad ibn ‘Alī ibn al-‘Arabī al-Ḥātimī al-Ṭā’ī, al-Shaykh al-Akbar, d.1240)学派に属するスーフイズムを採求するとともに、イスラーム改革主義者を育成した<sup>1)</sup>。

本稿は、アブドゥルカーディルによって執筆された著作を紹介し、彼の思想も併せて考察する。写本などの一次資料を確認できていないものは、彼の著作について述べている二次資料から引用する<sup>2)</sup>。アブドゥルカーディルの著作が具体的に何点あるのかを特定しようとするのは、現段階では不可能に近い。彼の思想を扱う場合、これらを列挙しようとする先行研究は情報量が少なく網羅的と言うにはほど遠い状態である。

たとえば、注2で掲げたCommins(1988)は3点、Étienne(1994)は10点、Weismann(2006)は3点を挙げるのみである。その一方で実に多くの文書や刊本を彼の著作としている研究もある<sup>3)</sup>。たとえば、Danziger(1977)は45点、Rouina(1986)は25点を列挙している。しかし、Danzigerは抗仏運動に焦点を絞って論じたために、彼の思想の代表的な著作について触れていない。また、Rouinaは854点とアブドゥルカーディルに関して非常に多くの著作を取り上げ、アブドゥルカーディル自身の著作とその他の著作に分類しているものの、アブドゥルカーディルによる著作と彼についての著作を混同している。

本稿ではアブドゥルカーディルの著作を、抗仏運動期(1832-47)、運動を終えてフランスで拘留されブルサへ移住した拘留期(1848-55)、晩年を送ったダマスカス期(1855-1883)に分けて、執筆年代順に列挙し、その書誌情報を示す。

巻末には、現時点で確認しうるアブドゥルカーディルの著作一覧を付した。ただし、イスラーム世界やフランスに散在する数多い文書等を網羅することは、研究の現状からは不可能で、本表も現時点で明らかにしたものを表記したにすぎず、さらに情報収集が必要である。

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

- 1) アブドゥルカーディルの具体的な行動に関しては梶堀(2009)を参照(梶堀木綿子「アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリー関連年表」『イスラーム世界研究』第2巻2号、京都大学イスラーム地域研究センター(KIAS)、2009、pp.248-288)。
- 2) 具体的には以下の先行研究にみられる書誌情報から引用する。Raphael Danziger, *Abd al-Qadir and the Algerians: Resistance to the French and Internal Consolidation*, New York: Holmes & Meier Publishers, 1977; Karim Rouina, “Bibliographie raisonnée sur l’Emir Abdelkader,” *Majallat et-Tarikh* 21, Alger: Centre National d’Études Historiques, 1986, pp.50-123; David Commins, “‘Abd al-Qadir al-Jazā’irī and Islamic Reform,” *The Muslim world* vol.78(2), 1988, pp.121-131; Bruno Étienne, *Abdelkader Isthme des isthmes: Barzakh al-barazikh*, Paris: Hachette, 1994; Itzhak Weismann, *Taste in Modernity: Sufism, Salafyya, and Arabism in Late Ottoman Damascus*, Leiden, Boston, Köln: Brill, 2006.
- 3) Neggazはフランス語による85点の著作と47点の記事を列挙したが<sup>4)</sup>、アブドゥルカーディル自身の著作がどの程度あるかについては不明(Zahia Neggaz, “Bibliographie de l’Emir Abd-El-Kader,” *Majallat-el-Tarikh*, 1er semestre 1983, pp.55-64)。

彼の著述活動に代表される思想を考える際に、フランスによる植民地統制という特異な状況の中で行われたことに注意する必要がある。また、言語に堪能であり現地を研究したアラブ局の職員らの活動などによる、フランス軍の植民地政策の政治的な影響があったことも考慮する必要がある。

### 抗仏運動期（1832-47）

まず、第一にアブドゥルカーディルがアミール（信徒たちの長）となったときの証拠となる資料が現存している<sup>4)</sup>。彼に対して二回バイアが行われ、一回目は彼と親族たちとの間で（*al-Bay'a al-Ūlā li-Sayyid al-Wālid* : 1832年11月27日）、二度目は彼と一般の人々との間で（*al-Bay'a al-Thāniya al-'Āmma* : 1833年2月4日）行われた。

アブドゥルカーディルの抗仏運動時に書かれたものには、1839年に秘書 Ruwayla の手によって執筆された『騎兵隊の旗と勝利のムハンマド軍の飾り（*Wishāh al-Katā'ib wa Zīna al-'Askar al-Muhammadī al-Ghālib*）』がある。1844年に仏陸軍の通訳者であったロゼッティにより、仏語での翻訳版が出版され、その後 *Spectateur militaire*（1843-44）、*Revue de l'Orient*（1844）に掲載され、1848年には仏語の導入部つきでアラビア語版も出版された<sup>5)</sup>。内容は常備軍編成に関して、イスラームの法に基づいてそれぞれの階級の役割と報酬を定めた軍事規則である。息子のムハンマドによるアブドゥルカーディルの伝記の中でも紹介されたほか、ダマスカスでもアラビア語版が1910年に出版された<sup>6)</sup>。

この当時の資料の内容は、抗仏運動に関する内容が主であり軍事協定や書簡が彼の著作となる。Danziger の調査によると<sup>7)</sup>、1832年4月～1839年11月までのアブドゥルカーディルに関する資料は、仏軍事歴史資料館（Archives Historiques de la Guerre : AHG）、アルジェリア関連の「H」のセクションに最も豊富に収蔵されている。これらは、アブドゥルカーディルと、西部アルジェリアのオラン駐屯のフランス司令官やアルジェリア総督との間で交わされた書簡であり、未公刊のものも多い。また仏外交文書館（Archives des Affaires Étrangères : AAE）にも多くの資料が保管されている。その中でとりわけ、抗戦相手であるフランスとの間で交わされた休戦協定文書の存在が重要である。1834年、フランス人捕虜の返還を理由に交渉が開始され、アブドゥルカーディルへの援助を認めさせたデミシエル協定が1834年2月26日に締結され、この文書は仏軍事歴史資料館に保存されている<sup>8)</sup>。このときデミシエルとアブドゥルカーディルとの間で交わされた書簡は、フランス軍事歴

4) これらの資料は、アルジェの軍事中央博物館（Musée Central de l'Armée, Alger）に写本が保存されている。また、彼の息子ムハンマドによって書かれた伝記には、このバイアの文書が掲載されている（Muhammad ben 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Tuhfa al-Zā'ir fi Tārīkh al-Jazā'ir wa al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, Ṭab'a 2, al-Jazā'ir: Thala Editions, 2007, pp. 183-193, 193-197）。初版は1903年である（Muhammad ibn 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Kitāb Tuhfa al-Zā'ir*, Ṭab'a 2, al-Iskandariya: al-Maṭba'a al-Tujārīya, 1903）。

5) Fernand Patoni (tr.), *Spectateur militaire*, tome 36, Paris: Bureau de Spectateur militaire, 1843-1844, pp.588-627; al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Règlements donnés par l'Émir Abd-el-Kader à ses troupes régulières*, V. Rosetty (tr.), 1844; A. H., "Organisation des réguliers d'Abd el-Kader: leur charte militaire," V. Rosetty (tr.), *Revue de l'Orient* 4, Société Orientale Paris, 1844, pp.225-234, 341-355; *Ouichah el-Kataib*, le colonel Boissonnet (dir.), Constantine, 1845; *Revue africaine*, 1844; al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Shi'r al-Shaykh al-Hājī 'Abd al-Qādir wa al-Hukm al-Shar'i lil-'Askar al-Muhammadī: Poésies d'Abd-El-Kader: ses règlements militaires*, Bārīz, al-Jazā'ir: Hāshīt, 1848, 60, 8 p., Louis-Adrien Berbrugger, "Ouichah el-Kataib: Règlement relatif à l'armée d'Abd-El-Kader," *Revue africaine* vol. 8, 1864, pp.98-103; *L'Emir El-Hadī Abd el-Kader, Règlements militaires*, Fernand Patoni (ed.), Alger: Fontana, 1889.

6) Muhammad b. 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Tuhfa al-Zā'ir fi Tārīkh al-Jazā'ir wa al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, Ṭab'a 2, al-Jazā'ir: Thala Editions, 2007, pp.228-251; *Wishāh al-Katā'ib wa Zīnat al-Jaysh al-Ghālib*, Damascus: n.p., 1910; *ibid*, Alger: SNED, 1968.

7) Danziger (1977), pp.278-281.

8) Archives Historiques de la Guerre (AHG): H-24 (Danziger (1977), p.241 による)。

史文書館に保存され、デミシエルの著書内で公表されている<sup>9)</sup>。また、フランス本国には秘密裡にアブドゥルカーディルとデミシエルとの間でさらに協定が締結され、フランス側が援助を約束するなどの便宜が図られた(1834年3月)<sup>10)</sup>。

1837年5月30日、アブドゥルカーディルとフランスとの間で二度目の休戦協定としてタフナ協定が締結され、彼はフランス側から、アルジェリアの3分の2を領土として認められることとなった。この協定の文書と、協定締結に関して彼とビュジョー将軍との間で交わされた書簡は、フランス・アルジェリア総督府文書館(Archives du Gouvernement Général de l'Algérie : AGGA)に保存されている<sup>11)</sup>。1837年8月23日、タフナ協定でも同様に秘密協定が締結された。この原本は散逸し、これについての言及はEmerit(1951)にある<sup>12)</sup>。Emerit(2002)は、アブドゥルカーディルがビュジョーに送った手紙を発表した。アブドゥルカーディルはこのタフナ協定の後に、ターグダムトを首都とする国家を建設し、後に『サハラ馬と砂漠の慣習』を執筆するマスカラ領事ドマと書簡を交換していた<sup>13)</sup>。

彼はモロッコやオスマン帝国に対しても手紙を送り、貿易港の使用を認める代わりに援助を依頼した。このようにアブドゥルカーディルが諸外国に外交文書を送り抗仏運動の援助を得ようとしていたことが書簡から明らかになる。これらの外交文書についてはTemimi(1971, 1978a, 1978b)、Danziger(1974)に詳しい<sup>14)</sup>。Temimi(1971)はアブドゥルカーディルが1835年に在テトゥアン英領事、1841年にオスマン帝国のスルターン・アブデュルメジドに宛てた書簡についてアラビア語原文の複写とその仏語訳を掲載し、その他の書簡に関しては仏語訳のみを掲載した<sup>15)</sup>。また、Danziger(1974)はアブドゥルカーディルが1836年、米領事に宛てた手紙を公表した<sup>16)</sup>。また、アブドゥルカーディルが1839年、ティジャーニー教団の長に送った手紙がFilali(1997)によって公

9) AHG: H-22, 23, 24; Louis-Alexis Desmichels, *Oran sous le commandement du général Desmichels*, Paris: Anselin, 1835, pp.79-82, 82-88, 89-91, 97-98, 99-101, 101-105, 105-107, 108-109, 111-112, 112-113.

10) この協定の内容に関して Esquer(1926)は仏語訳を発表した(Gabriel Esquer (ed.), *Correspondance du général Drouet d'Erlon, gouverneur général des possessions françaises dans le nord de l'Afrique (1834-1835)*, Paris: Champion, 1926, pp. 559-560)。また Ageron(1977)は協定の複写版を掲載した論文を発表した(Charles-Robert Ageron, "Première négociations franco-algériennes," *Preuves* vol.163 (Septembre 1964), p.48)。

11) 協定文書 AGGA: 21-X-31, アブドゥルカーディルから秘密協定締結の相手であるビュジョー将軍、フランス国王フィリップに送られた書簡 AGGA: 2 E 4 (Emerit(2002)による。pp.141-154)。Yver(1924)がこの協定に関して発表している(Georges Yver (ed.), *Documents relatifs au traité de la Tafna (1837)*, Alger: J. Carbonel, 1924)。

12) Marcel Emerit, *L'Algérie à l'époque d'Abd el-Kader*, Paris: Larose, 1951, pp.137-138.

13) Georges Yver, *Correspondance du capitaine Daumas, consul à Mascara (1837-1839)*, Alger: A. Jourdan, Paris: P. Geuthner, 1912.

14) Abdeljelil Temimi, *Recherche et documents d'histoire maghrébine: la Tunisie, l'Algérie et la Tripolitaine de 1816 à 1871*, Tunis: Publication de l'Université de Tunis 4ème série, Histoire vol.10, 1971; Abdeljelil Temimi, "Lettres inédites de l'émir Abdelkader," *Revue d'Histoire Maghrébine / al-Majalla al-Tārikhiya al-Maghribiyya* vol.10-11, Tunis, 1978a, pp.159-202; Abdeljelil Temimi, "Lettres inédites de l'émir Abdelkader," *Revue d'Histoire Maghrébine / al-Majalla al-Tārikhiya al-Maghribiyya* vol.12, Tunis, 1978b, pp.308-343; Raphael Danziger, "Abd al-Qadir's First Overtures to the British and the Americans (1835-1836)," *Revue de l'Occident musulman et de la Méditerranée* vol.18(1), 1974, pp.45-63.

15) アブドゥルカーディルからテトゥアン駐在英領事への手紙(1835年9月22日)、英国王ウィリアム4世への手紙(1836年1月11日): Great Britain, *Public Record Office*, The Foreign Office (F.O.), 52/40; 英国政府への手紙(1840年4月12日)、ジブラルタル駐在英領事への手紙: F.O. 3/43; 英国首相への手紙(1841年12月10日): 3/44、アブデュルメジドへの手紙(1841年12月10日): B.A., *Irada.*, 820 *Hariciye*, liasse no 2: lettre en arabe d'Abdelkâder au Sultan 'Abdulmadjid (pl.XVII): lettre en arabe d'Abdelkâder au Sultan 'Abdulmadjid (pl.XVII), pp.201-202; 大ワズイールへの手紙(1841年12月10日): B.A., *Irada.*, 820 *Hariciye*, liasse no 4: lettre en arabe adressée par 'Abdelkâder au Grand Vizir ottoman, pp.202-203; マグリブの人々の立場を援護していたオスマン帝国のハマダーン・ホージャへの手紙(1841年12月10日) B.A., *Irada.*, 820 *Hariciye*, liasse no 9: lettre en arabe adressée par 'Abdelkâder à Hamdân b. 'Othmân Khûdja (Abdeljelil Temimi, *Recherche et documents d'histoire maghrébine: la Tunisie, l'Algérie et la Tripolitaine de 1816 à 1871*, Tunis: Publication de l'Université de Tunis 4ème série, Histoire vol.10, 1971, pp.193, 201, 203-204)。

16) 米領事への手紙(1836年4月30日受領): the National Archives, Washington, D.C., General Records of the State Department. Record Group (R.G.), 59/78, Tangier, vol.5 (Raphael Danziger, "Abd al-Qadir's First Overtures to the British and the Americans (1835-1836)," *Revue de l'Occident musulman et de la Méditerranée* vol.18(1), 1974, pp.45-63)。

表されている<sup>17)</sup>。Badjadjaによると、トルコ文書館にはほかに、アブドゥルカーディルと東部アルジェリアで抗仏運動を行っていたアフマド・ベイとの間に交わされた書簡が収蔵されている<sup>18)</sup>。これらの外交文書にはアブドゥルカーディルの印章が押されている。

また、彼がアルジェリアで執筆していた詩も発表されている<sup>19)</sup>。

### 拘留期 (1848-55)

1848-52年、アブドゥルカーディルはアルジェリアからの一行とともに1848年からフランスのトゥーロン、ポー、アンボワーズと拘留地を転々とする。この間、彼は一切の政治的役割を放棄させられ(1848年3月14日<sup>20)</sup>、軟禁されていた環境は劣悪さを極め、彼自身や同伴者の健康の悪化、さらに同伴者の死を招くような過酷な状況にあった。だが皮肉なことにこの間に、彼は著述活動を活発に行っていた。

まず1849年にアブドゥルカーディルの初めての自伝が執筆された。本書はさらにアブドゥルカーディルとフランスとの間の戦争と、アブドゥルカーディル自身の出自についても述べるものである。各章の構成は、序章、1章:アブドゥルカーディルの系譜、第2章:預言者の血統とアラブ人の起源、第3章:預言者性と諸預言者、第4章:アブドゥルカーディルの抵抗運動の開始と終了、第5章:アラブ人の歴史、第6章:ローマとキリスト教徒の歴史、第7章:アラブ人とキリスト教徒との関係、結論から成る。本書はキリスト教の司祭に依頼されて執筆されたものと述べられているものの、具体的に誰に依頼されて書いたものかは不明である。本書の原稿は当時のアルジェ市長が、フランスでアブドゥルカーディルの身辺警護を行っていた彼の親戚から手渡され、その後アルジェリア国会図書館に所蔵された。原稿にはこの人物によるものとみられる、鉛筆による伝語のメモもある。1983年、アブドゥルカーディルの生誕百年を記念して、アルジェリア国会図書館に収蔵されていたこの原稿のコピーが出版された<sup>21)</sup>。1995年には、アルジェリアで第1章と第4章を全訳し、その他の章については要約した伝語訳版が出版された<sup>22)</sup>。この翻訳に際して、アルジェリアの研究チームは、アブドゥルカーディルが半年滞在していたフランス南西のポーで本書が執筆されたこと、筆跡鑑定から執筆者はアブドゥルカーディルを含めて最大8名であり、彼の執筆箇所は27-84、117-139頁であることを明らかにした。翻訳版の末尾には、アブドゥルカーディル自身が執筆したアラビア語原稿のコピーが添付されている。

またフランス滞在期間、キリスト教関係者との交流はとりわけ顕著であったことが指摘できる。1849年、アンボワーズ城に拘留されていたアブドゥルカーディルが、カトリック司教デュピュシュ

17) Filali, Kamel, "Le différend qadiriyya-tijaniyya en Algérie (avec la publication d'une lettre envoyée par Abdelkader à Sîdî Muhammad al Habib al Tijâni)," *Revue d'Histoire Maghrébine / al-Majalla al-Târîkhîya al-Maghrîbiya* 24/87-88, Tunis, 1997, pp.301-313. この手紙のアラビア語版と伝語訳は、Bessaïh (2001)にある("Lettre de l'Émir au chef des Tidjania," Boualem Bessaïh, *De l'Émir Abdelkader à l'Imam Chamyl: le héros Thétichènes et du Caucase*, Alger: ENAG Editions, pp. 366-367)。

18) Abdelkrim Badjadja, "Panorama des archives de l'Algérie moderne et contemporaine," Mohammad Harbi & Benjamin Stora (ed.), *La guerre d'Algérie*, Paris: Hachette, 2004, p.929.

19) 'Abd al-Qâdir ibn Muhyî al-Dîn, *Les poésies d'Abd-el-Kader composées en Algérie et en France*. Henri Pérès (ed.), Alger: Société Historique Algérienne, 1932. この一部 (pp.34-39) のアラビア語原典および伝語訳は Henri Pérès (tr., ed.), "Eloge de la vie bédouine," *Bulletin des Études Arabes*, Alger, 1949, pp. 151-153 参照。

20) Ahmed Bouyerdene, *Abd el-Kader: l'harmonie des contraires*, Paris: Édition du Seuil, 2008, p.92.

21) al-Amîr 'Abd al-Qâdir al-Jazâ'irî, *al-Sîra al-Dhâtîya*, al-Jazâ'ir: al-Sharîka al-Waṭaniya lil-Nashr wa al-Tawzî', 1983, 225 p.

22) *L'émir Abdelkader : autobiographie écrite en prison (France) en 1849 et publiée pour la première fois*, H. Benmansour (tr.), Paris: Dialogues Édition, 1995.

に宛てた、敗北の定めとしてフランスを援助する内容の手紙も公表されている<sup>23)</sup>。また Gabeau (1897-1898) が、アブドゥルカーディルとナポレオン3世との談話、彼とアンボワーズの司教との間で交わされた書簡を公表している<sup>24)</sup>。『イスラームを中傷する者の舌を切る鋭い鋏 (*al-Miqrāḍ al-Hādd li-Qaṭ' Lisān Muntaqis Dīn al-Islām*)』は1850年頃アルジェリアにおけるカトリック聖職者がイスラームを非難したことに対する反論として執筆された<sup>25)</sup>。アブドゥルカーディルはシャリーアに基づく統治、イスラームの正当性を主張し、イスラームの義務の遂行と欺瞞に対するシャリーアによる裁定について詳述している。本書では神の存在と預言者とりわけムハンマドについて大きく紙幅が割かれ、この主張の根拠をなすものとしての理性 (*al-'aql*) の性質と機能が定義されている<sup>26)</sup>。本書では、彼の後半生の思想へ大きな影響を及ぼしたイブン・アラビーが引用されているものの、その目的はイスラームを異端と告発するキリスト教徒たちへの反論という非常に限定されたものである<sup>27)</sup>。本書の翻訳は存在しない。

続いて、『知性ある人への喚起、無関心な人への忠告 (*Dhikrā al-'Āqil wa Tanbīh al-Ghāfil*)』は、哲学、心理学、宗教、経済、政治、文献学、歴史、民俗学の幅広い分野の問題を取り扱い、人間の精神について検討するものである<sup>28)</sup>。1852年、アブドゥルカーディルはフランスでの拘留から開放された後、パリのアジア協会 (*La Société Asiatique*) の会員となった。本書の執筆はブルサ到着後の1853年に開始され、1855年9月に彼が再びフランスを訪問した際、協会会長レイノー (*Joseph Reinaud*) に提出された<sup>29)</sup>。本書の意義は、アブドゥルカーディルが軍人であるのみならず、哲学者、学者であるという新しい側面をフランス側に紹介したということにもある。本書において、アブドゥルカーディルは、人間の精神は感覚、悟性、理性、信仰から構成されるとした。知識を社会の中で実際に適用することで、人間はあらゆる存在の頂点に立ち、完全さの徴として知識をもつことが可能になる。彼は物質的享楽よりも精神的快樂を賞賛し、そこにおいて信仰は理性と矛盾するものではないとした。宗教について、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの三つの一神教が本質的に一つであり、イスラームの法は、物質的な法をもつユダヤ教、精神的なキリスト教の法を統合するとする。本書の訳者序において、Dougat はアブドゥルカーディルを、19世紀のイスラーム (*Islamism*) において最も見識があり最も著名な人物であると位置づけている。本書は1900年にアラビア語でアブドゥルカーディルの息子のムハンマドによって<sup>30)</sup>、1966年にはマムドゥーフ・ハッキーによって出版された<sup>31)</sup>。1977年仏語での出版も行われ、その表題は『フランス人への手紙』とされた<sup>32)</sup>。『イ

23) Monseigneur Antoine-Adolphe Dupuch, *Abd-El-Kader au château d'Amboise*, Bordeaux: Faye, 1849.

24) A. Gabeau, "L'Emir Abd-El-Kader à Amboise," *Bulletin de la société archéologique de Touraine, 1897-1898*, pp.348-383.

25) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *al-Miqrāḍ al-Hādd li-Qaṭ' Lisān Muntaqis Dīn al-Islām bil-Bāṭil wa al-Ilhād*, Bayrūt: Dār Maktaba al-Ḥayāt, 1972?

26) Commins (1988), p.122.

27) Chodkiewicz (1982), p.21.

28) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Dhikrā al-'Āqil wa-Tanbīh al-Ghāfil / Le livre d'Abd-el-Kader intitulé: Rappel à l'intelligent, avis à l'indifférent: considérations philosophiques, religieuses, historiques, etc.; traduites, avec l'autorisation de l'auteur, sur le manuscrit original de la Bibliothèque Impériale, par Gustave Dugat*, avec une lettre de l'émir, une introduction et des notes du traducteur, Paris: B. Duprat, 1858, 370 p.

29) 翻訳者 Dougat (1858, p.x) によると、レイノーは本書に関する報告を掲載している (*Le Moniteur*, vol.9, juillet, 1855)。(筆者未見)

30) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Dhikrā al-'Āqil wa-Tanbīh al-Ghāfil*, Muḥammad 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī (ed.), Bayrūt?, 1900, 132 p.

31) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Dhikrā al-'Āqil wa-Tanbīh al-Ghāfil*, Mamdūh Ḥaqqī (ed.), Bayrūt: Dār al-Yaqza al-'Arabīya, 1966, 164 p.; rep. B: DY'A wa [al-Q]: MK, 1976, 158 p.

32) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Lettre aux Français: notes brèves destinées à ceux qui comprennent, pour attirer l'attention sur des problèmes essentiels*, René R. Khawam (ed.), Paris: Phébus, 1977, 274 p.; 'Ammār Ṭālibī, *Lettre aux Français*, Alger?: Éditions ANEP, 2005, 114, 81 p.; René R. Khawam, *Lettre aux français: notes brèves destinées à ceux qui*

スラムを中傷する者の舌を切る鋭い剣』と『知性ある人への喚起、無関心な人への忠告』は、彼の理性主義的性格がダマスカス到着以前に完成されていたことを示す。これらの著作は平易な言葉でありながらも、理性の重視、ガザーリー、プラトン、アリストテレスに依拠した論理的議論の追求が特徴的である<sup>33)</sup>。

また1851年、アルジェリア西部の都市マスカラの仏領事(1827-39)であったドマによって『サハラ馬と砂漠の慣習』が出版された。本書では、アラブ人にとって馬が特別な存在であり、狩や農耕などの生活に古くから関わってきたことが述べられており、アブドゥルカーディルが、クルアーンにおける馬についての言及や故事を用い、著者への質問に返答した手紙が掲載されている<sup>34)</sup>。本書は仏語で数多く重版されたほか、英語、ドイツ語でも出版された<sup>35)</sup>。アラビア語では出版されていない。

### ダマスカス期(1855-83)

1855年、アブドゥルカーディルはダマスカスに到着後すぐ、イブン・アラビーの墓廟に参詣し、イブン・アラビーが没した家に住む許可を得た。この時期以降イブン・アラビーの影響力の強い内面的探求の側面が彼の思想に顕著となった。さらに、行動面でのスーフィズム思想の実践も際立っている。アブドゥルカーディルはシャーズイリー教団とナクシュバンディー教団の両方に所属し、どちらの教団もイブン・アラビーの影響が顕著であった。ナクシュバンディー教団については、ハーリド・バグダーディーの主導による改革主義的な傾向が指摘されている<sup>36)</sup>。彼は1857年エルサレムを訪れ、1862年にはマッカを巡礼し、シャーズイリー教団のマダニー派のムハンマド・ファースイーに指導を受け、修行を行った。アブドゥルカーディルはマッカでの修行中、修行階梯(maqāmāt)をたちどころに通過し、ヒラーの洞窟で啓示を受けたとされている。その後1857年に出版されたイブン・アラビー著*al-Futūhāt al-Makkīya*の写本を、小アナトリアのコンヤに保存されていた原本と照合させるべく、弟子を1870年に同地に送った。アブドゥルカーディルの死後<sup>37)</sup>、クルアーンとハディースを神秘主義的に解釈したスーフィズムの集大成である『諸階梯の書』が刊行された<sup>38)</sup>。原本の写本は、Lagarde (2000)によると、アルジェ図書館(Bibliothèque d'Alger)に

*comprennent, pour attirer l'attention sur des problèmes essentiels*, Paris: Phébus, 2007.

33) Weismann (2006), pp.155-156.

34) Eugène Daumas, *Les chevaux du Sahara*, Paris: Chamerot, 1851. アブドゥルカーディルへの著者からの質問に対する手紙の分量はおよそ10頁であり仏訳されている。さらに、1866年の版ではブルサで書かれた手紙が加えられている(Eugène Daumas, *Les chevaux du Sahara et les moeurs du désert*, Nouv. éd. rev. et augm. avec des commentaires par l'Émir Abd-el-Kader: publié avec l'approbation du Ministre de la Guerre, Paris: M. Lévy frères, 1866, pp.30-33)。

35) Eugène Daumas, *ibid.*, 2. éd., Paris: Schiller Aîné, 1853; do., *ibid.*, 3. éd., rev. et augm. avec des commentaires de l'émir Abd el-Kader, Paris: Lévy frères, 1855; do., *ibid.*, 4. éd., Paris: Lévy, 1857; do., *ibid.*, 5. éd., Paris: M. Lévy frères, 1858 (avec des commentaires par l'émir Abd-el-Kader); do., *ibid.*, Nouv. éd., rev. et augm., Paris: L. Hachette et cie, 1862 (incl. front.); do., *ibid.*, 6. éd., 1864, rev. et augmentée, avec des commentaires, Paris: M. Lévy frères; do., *ibid.*, Nouv. éd. rev. et augm. avec des commentaires par l'Émir Abd-el-Kader: publié avec l'approbation du ministre de la guerre, Paris: M. Lévy frères, 1866; do., *ibid.*, 8. éd., rev. et augm., Paris: C. Lévy, 1881; do., *ibid.*, 9. éd., Paris: C. Lévy, 1887; do., *Dialogues sur l'hippologie arabe: les chevaux du Sahara et les moeurs du désert*, François Pouillon (ed.), édition intégrale, Arles: Actes sud 2008; do., *The Ways of the Desert*, Austin: University of Texas Press, 9th ed., rev. et augm., 1971; do. *The Ways of the Desert*, 9. ed., rev. et augm. with commentaries by the Emir Abd-el-Kader, Sheila M. Ohlendorf (tr.), Austin: University of Texas Press, 1971; do., *Die Pferde der Sahara* / Hildesheim; New York: Olms (Translation of the author's *Les chevaux du Sahara* / "Bemerkungen des Emir Abd-el-Kader": Bd.2, p.23-74 / Reprint of the 1853-54 ed. Berlin: Allgemeine Deutsche Verlagsanstalt, 1976, 1853.

36) Weismann (2006), pp.148-153.

37) 1883年5月25～26日の夜、アブドゥルカーディルは没した。ウマイヤ・モスクにおいて葬儀が執り行われ、彼の弟子の一人であったムハンマド・ハーニーが喪主を務め、遺体はサーリヒーヤ地区のイブン・アラビー廟の隣に埋葬された(Weismann (2006), p.153)。

38) アブドゥルカーディルの著作以外に、「階梯」"al-Mawāqif"をタイトルに持つ本としては、'Abd al-Jabbār al-Niffārī

収蔵されており<sup>39)</sup>、1983年のアブドゥルカーデイルの没後百周年記念の機会に再版された。本書はクルアーンと預言者の伝承の章句の、アブドゥルカーデイルによる神秘主義的な注釈から構成されたものと位置づけられる。本書は、1856年から行われたマジユリスの過程で、彼が即興的に述べたことを、主に3名のアブドゥルカーデイルの弟子、ムハンマド・ハーニー、アブドゥルラッザーク・バイタール、ムハンマド・タンターウィーが聴講して書き留めたものである。

本書の出版は1911年カイロにおいて行われた<sup>40)</sup>。続いてダマスカスで1966～67年に全3巻にまとめられ、第1巻は481頁、215階梯、第2巻は482頁、83階梯、第3巻は456頁、74階梯から構成されている<sup>41)</sup>。この版をもとにして、仏語訳、仏語版からの英語重訳<sup>42)</sup>が出版されている。これらの翻訳版において、アブドゥルカーデイルは近代のイブン・アラビー学派の解釈者と位置づけられている。同書にみられるイブン・アラビーの顕著な影響は、彼の著書である *al-Futūḥāt al-Makkīya* と *al-Fuṣūṣ al-Ḥikam* からの引用に顕著である。また彼自身のヴィジョンの体験におけるイブン・アラビーとの対話の箇所に見てとることができる<sup>43)</sup>。一例として、イブン・アラビーがライオンの姿をして現れ、アブドゥルカーデイルに、口に手を入れるようにと言ったという記述がある。彼が恐怖を克服して言われた通りにすると、イブン・アラビーが人間の姿になった。アブドゥルカーデイルは「イブン・アラビーはまさしくムハンマド的聖性の封印である」と述べている<sup>44)</sup>。

またローマでアラビア語・イスラーム教皇研究所に勤めるキリスト教神父 (père blanc) であるラガルドは、2000年に初の仏語翻訳を刊行した<sup>45)</sup>。同書は1966～67年に刊行されたダマスカス版の翻訳であるため、やはり3巻に分けられている。それにもかかわらず、序文はわずか1ページ半という短さである。ラガルドはテキストにアブドゥルカーデイル自身によって書きとめられた箇所が、存在することを指摘している。

「そして神の僕である私は、奇妙な偶然の一致ではあるが、この階梯を書いているときに、私たちの父であるアダムを夢うつつの状態で見ただのである<sup>46)</sup>。」

「私がこの階梯について執筆しているとき、神は彼の言葉を私に投げかけ、そのとき私は覚醒とまどろみの状態にあった。<sup>47)</sup>」

(d. 350/961) の *Kitāb al-Mawāqif wa al-Mukhāṭabāt*、ビジュラ暦10～11世紀の神秘家である 'Abd al-Qādir b. Muḥammad (通称 Qaḍīb al-Bān) の *Kitāb al-Mawāqif al-Ilāhiya* がある。

39) 現在では収蔵場所は軍事中央博物館 (Musée Central de l'Armée) に変更された模様である (Cheikh Khaled Bentounès et al., *L'Emir Abdelkader: L'épopée de la sagesse*, Alger: Zaki Bouzid Éditions, 2007, pp. 89, 171, 183, 311)。

40) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Kitāb al-Mawāqif al-Wa'z wa al-Irshād*, Al-Qāhira: Maṭba'a al-Shabāb, 1911.

41) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Kitāb al-Mawāqif al-Taṣawwuf wa al-Wa'z wa al-Irshād*, al-Tab'a 3, Dimashq: Dār al-Yaqza al-'Arabiya lil-Ta'lif wa al-Tarjama wa al-Nashr, 1966, 1416 p.

42) Chodkiewicz は39の階梯を翻訳している。 *Écrits spirituels (Kitāb al-Mawāqif)*, Michel Chodkiewicz (pr. & tr.), Paris: Édition du Seuil, 1982; Khurshīd は Chodkiewicz とは別の48の階梯を翻訳している。 *Le Livre des haltes*, A. Khurshīd (tr.), Lyon: Alif Éditions, 1996; *Le Livre des Haltes (Kitāb al-Mawāqif)*, Tmes 1, 2, 3, Michel Lagarde (pr. & tr.), Leiden, Boston, Köln: Brill, 2000; Michel Chodkiewicz (pr. & tr.), *The Spiritual Writings of Amir 'Abd al-Kader*, John Chrestensen and Tom Manning (tr. & dir.), Albany: State University of New York Press, 1995.

43) 第248, 353階梯。シヨドキウィツによる翻訳・研究書(1982)によると、アブドゥルカーデイルの祖父の Sīdī Muṣṭafā はエジプトで、al-Sayyid Murtaḍā al-Zabīd (d. 1791) からイブン・アラビー学派のヒルカ (*khirqa akbarīya*) を授与された。アブドゥルカーデイルもこのヒルカを父の Sīdī Muḥyī al-Dīn から受け取ったと考えられる。また、ヒルカの伝承経路として、ナクシュバンディー教団が挙げられる。

44) 第353階梯。

45) 本書の1, 2巻に対する書評には Geoffroy (2002) がある (Eric Geoffroy, "Book Reviews 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Le Livre des Haltes [The Book of Stations] (Kitāb al-Mawāqif)*, Volume I and II, presented, translated and annotated by Michel Lagarde, Brill, Leiden, 2000-01, 632 and 626 pages," *Journal of the Muhyiddin Ibn 'Arabi Society*, vol. 32, 2002, pp. 101-105)。

46) 第109階梯。

47) 第123階梯。

アルジェリアでは1996年に、国会図書館に収蔵されていた写本が複写出版され<sup>48)</sup>、2007年にはアラビア語での活字出版が行われた<sup>49)</sup>。GALや*The Encyclopedia of Islam*のアブドゥルカーディルの項に『諸階梯の書』についての記述がない<sup>50)</sup>のは時代的に仕方がないとして、今だに同書の位置づけは評価が定まっていない。

アブドゥルカーディルはアルジェリア時代から多くの詩を執筆した。そしてこれらの詩の選集も公表されてきた。だが、それらの詩が書かれた時期や原本は不明であり、これまでに出版された詩集も同一の詩を掲載していない。19世紀に詩集が一冊出版された後<sup>51)</sup>、1960年代からベイルートで、マムドゥーフ・ハッキーの編集によるものをはじめとして出版が増加した<sup>52)</sup>。そのうち、Gilis (1983)によって仏語翻訳が発表された、『形而上学的詩』は『諸階梯の書』の冒頭に掲載されているものである<sup>53)</sup>。同書は、彼の詩を「精神的な所産」と位置づけ、イブン・アラビー学派であることを強調する。訳者は彼の詩から、イスラーム神秘主義において代表的なハッラージュ (Abū 'Abd Allāh al-Husayn ibn Manṣūr al-Baydāwī al-Hallāj, d. 922) とマジヌーンとの対比がみられるとしている。まず、アブドゥルカーディルは、ハッラージュにみられるワインによる陶酔をイブン・アラビーの教義解釈によって、至高の段階の状態と混同されず、かつイスラームの教義から逸脱することのない限定的なものにとらえているとする<sup>54)</sup>。一方、ライターへの愛に没頭するマジヌーン (狂人の意) への言及は<sup>55)</sup>、イブン・アラビーの言及した愛の忘我状態 (wajd) と共通し<sup>56)</sup>、神への愛を表現したものと考えている。

この時期の書簡としては、スエズ運河工事の責任者であるレセップスとの書簡<sup>57)</sup>、1837～39年、アルジェリアで彼の秘書を務めていたフランス人、レオン・ロッシュとの間の1848～83年までの19通の書簡<sup>58)</sup>、さらに1860年、ムスリム暴動の際に蜂起鎮圧のため、レバノン山においてマロン派と対立していたドゥルーズ派のウラマーたちに送った書簡が挙げられる<sup>59)</sup>。また未刊行の資料

48) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *al-Mawāqif*, al-Tab'a 3, al-Jazā'ir: Mūfam lil-Nashr, 1996, 973 p.

49) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Hasanī al-Jazā'irī, *Kitāb al-Mawāqif fī Ba'ḍ Ishārāt al-Qur'ān ilā al-Asrār wa al-Ma'ārif*, 'Abd al-Bāqī Miṭṭāh (ed.), al-Tab'a 3, 'Ayn Malīla: Dār al-Hudā, 2007, 1344 p.

50) Carl von Brockelmann, *Geschichte der arabischen Litteratur (GAL)*, Leiden, New York: Brill, 1996, "Abdalqādir b. Muhyiddīn" GII, pp. 509–510; SII, pp. 886–887; Ph. de Cossé-Brissac, *EF*, vol. 1, pp. 67–68; 'Umar Riḍā, Kaḥḥāla, *Mu'jam al-Mu'allifin: Tarājim Muṣannif al-Kutub al-'Arabīya*, Bayrūt: Mu'assasa al-Risāla, 1993, "'Abd al-Qādir al-Jazā'irī," p. 198.

51) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Nuzha al-Khāṭir fī Qarīd al-Amīr 'Abd al-Qādir*, al-Fujāla: Maṭba'a al-Ma'ārif, 18---, 58 p. 本書はアルジェで2001年に再版された (al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Nuzha al-Khāṭir fī Qarīd al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, al-Jazā'ir: Dār al-Umma, 2001, 189 p.)

52) al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī, *Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, Dimashq: Dār al-Yaqza, 196-, 168 p.; *Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī (Poemes choisies)*, Mamdūh Haqqī (ed.), al-Tab'a 2, Bayrūt: Dār al-Yaqza al-'Arabīya lil-Ta'līf wa al-Tarjama wa al-Nashr, 1964, 224 p.; *Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī (Poemes choisies)*, Mamdūh Haqqī (ed.), al-Tab'a 3, Bayrūt: Dār al-Yaqza al-'Arabīya lil-Ta'līf wa al-Tarjama wa al-Nashr, 1965, 238 p.; *Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, Zakariyā Shiyām (ed.), al-Jazā'ir: al-Mu'assasa al-Jazā'iriya lil-Ṭibā'a, 1986, 340 p.; *Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, Zakariyā Shiyām (ed.), al-Jazā'ir: Dīwān al-Maṭbū'a al-Jāmi'iya: al-Mu'assasa al-Jazā'iriya lil-Ṭibā'a, 1988, 340 p.; *Dīwān al-Shā'ir al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī*, al-'Arabī Daḥū, Muḥammad Riḍwān Dāya (ed.), al-Kuwayt: Mu'assasa Jā'iza 'Abd al-'Azīz Sa'ūd al-Bābiṭn lil-Ibdā' al-Shi'rī, 2000, 208 p.; al-'Arabī Daḥū, *Dīwān al-Shā'ir al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī 1807 M-1883 M*, Ṭab'a 3, al-Abyār, al-Jazā'ir: Manshūrā Thāla, 2007, 148 p.

53) *Poèmes Métaphysiques*, Charles-André Gilis (tr., pr.), Paris: Les Éditions de l'Œuvre, 1983; 2. ed, Beyrouth: Éditions al-Bouraq, 1996.

54) 詩 4, 17–18 節。

55) 詩 4, 11–12 節。

56) *Futūḥāt* 178 章 (Gilis (1983) による。P. 12)。

57) Ferdinand de Lesseps, *Souvenirs de quarante ans dédiés à mes enfants*, Paris: Nouvelle Revue, 1887.

58) Léon Roches, *Dix ans à travers l'Islam 1834–1844*, 3. éd., Paris: Perrin et Cie, Libraire-Éditeurs, 1904.

59) Charles-Henri Churchill, *The Life of Abdel Kader, Ex-Sultan of the Arabs of Algeria: Written from His Own Dictation and Compiled from Other Authentic Sources*, London: Chapman and Hall, 1867, pp. 312–313.

として、棄教を論じたものもある<sup>60)</sup>。

## その他

アブドゥルカーデイルの執筆した文書を用いた出版は近年になっても相次いでいる。しかし、これらの資料は執筆年代がいつのものか特定できない。アブドゥルカーデイルとスペインとの関係とスペイン領のメリリヤに彼が置いた知事たちについて、彼の執筆した資料を用いた本が1982、86年に二巻本で出版された<sup>61)</sup>。Rouinaによると、この本は1847年の4月から9月にかけてのアブドゥルカーデイルの書簡を23通掲載しているとされる<sup>62)</sup>。

1981年、アルジェリア人のヒジュラについてのアブドゥルカーデイルの見解が公刊されている<sup>63)</sup>。1996年、抗仏ジハードにおけるアブドゥルカーデイルの協定についての出版が行われた<sup>64)</sup>。2004年、アルジェリア西部の都市オランで、アブドゥルカーデイルの書簡について総括したものが出版された<sup>65)</sup>。同年バイルートでは、自己顕現 (tajalli) についての本が発表された<sup>66)</sup>。

## 終わりに

アブドゥルカーデイルの著作は、刊行されて書籍の形をとるものや、文書として様々な資料館に保存されているものなど多岐にわたる。現時点ではそのすべてを渉猟することはできず、彼の著作の総点数を確定するには至らなかったが、本稿末の一覧表に示したように、少なくとも83の著作を挙げるができる。これらの著作を、彼の思想にしたがって分類すると、フランス人やキリスト教徒との論争に際して書かれたもの、抗仏戦争やその他政治的な目的での書簡等にみられる応用主義的な思想、『諸階梯の書』にみられるスーフィズムの形而上学的な思想に分類できる。また詩人としての側面も非常に大きな位置を占める。これらの著作の多くは、フランスに拘留されていた時期とブルサに滞在していた時期に執筆されている。

彼の著作は19世紀フランスで出版された後、主に1960年代以降はダマスカス、バイルート、アルジェリアで出版が盛んになった。書簡や彼が執筆したその他の文書は、様々な編集者がアブドゥルカーデイルの著作として発表している。現在においても、アルジェリアという国家に意味を与えるための歴史的資料、思想的資料として用いられている。これらのうち、典拠が不明なものについて執筆年代や原本の特定を行い、彼の思想の形成の過程についてさらに細かく整理することが今後必要とされるであろう。

60) al-Amīr ‘Abd al-Qādir al-Jazā’irī, *Husām al-Dīn li-Qaṭ’ Shubah al-Murtaddīn* (『棄教者の肩を切る宗教の剣』). Étienne (1994) p.433 によると、本書は全く刊行されていない。

61) Yahyā Bū ‘Azīz; Miguel de Epalza, *al-Jadīd fī ‘Alāqā al-Amīr ‘Abd al-Qādir ma’a Isbāniyā wa Hukkāmihā al-‘Askariyyīn bi-Malīliyya*, al-Tab’a 1, Qusanīnah: Dār al-Ba’t̤h, 1982; al-Tab’a 2, al-Jazā’ir: Dīwān al-Maṭbū’a al-Jāmi’ya, 1986 (筆者未見)。

62) Rouina (1986), p.65.

63) Muḥammad ibn ‘Abd al-Karīm, Ahmad ibn Yahyā Wansharīsī, Abū ‘Abd Allāh Muḥammad ibn Shāhid, *Hukm al-Hijra min Khilāl Thalāth Rasā’il Jazā’irīya: Dirāsā wa Wathā’iq*, al-Jazā’ir: al-Sharika al-Waṭaniyya lil-Nashr wa al-Tawzī’, 1981 (筆者未見)。

64) Alī ibn ‘Abd al-Salām Tusūlī; ‘Abd al-Laṭīf Muḥammad Sāliḥ, *Ajwiba al-Tusūlī ‘an Masā’il al-Amīr ‘Abd al-Qādir fī al-Jihād*, Bayrūt: Dār al-Gharb al-Islāmī, al-Tab’a 1, 1996 (筆者未見)。

65) ‘Abd al-Qādir Hanī, *Correspondance de l’émir Abdelkader 1833–1883*, Oran: Dar el Gharb, 2004 (筆者未見)。

66) ‘Abd al-Qādir ibn Muḥyī al-Dīn al-Jazā’irī, *Bughyat al-Tālib ‘alā Tartīb al-Tajallī bi-Kullīyāt al-Marātib*, ‘Āṣim Ibrāhīm al-Kayyālī (ed.), al-Tab’a 1, ‘Āṣim Ibrāhīm al-Kayyālī al-Husaynī al-Shādhilī al-Darqāwī (ed.), Bayrūt: Dār al-Kutub al-‘Ilmiyya, 2004 (筆者未見)。

## アブドゥルカーディルの著作物一覧

題名 <sup>67)</sup>	内容	執筆	出版	仏訳出版	仏語題名	備考
1 <i>al-Bay'a al-Ūlā li-Sayyidī al-Wālid</i>	信徒たちの長としての宣誓文	1832年	Muhammad b. 'Abd al-Qādir Tuhfa, 2007 (1903 1st ed.), pp.183-199			
2 <i>al-Bay'a al-Thāniya al-'Āmma</i>	信徒たちの長としての宣誓文	1833年	Muhammad b. 'Abd al-Qādir Tuhfa, 2007 (1903 1st ed.), pp. 193-197			
3 *	デミシエルの手紙に対する返答	1834年				Desmichels 1835, pp. 79-82.
4 AHG : H-24 *	和平締結への同意	1834年 1月20日				Desmichels 1835, pp. 101-105.
5 *	デミシエルへの手紙	1834年 2月25日				Desmichels 1835, pp. 105-107.
6 *	デミシエルへの手紙	1834年 2月25日				Desmichels 1835, pp. 118-119.
7 <i>al-Mu'āhada Dimishīlī</i>	仏との休戦協定	1834年 2月26日	1836年		<i>le traité de Demichels</i>	Desmichels 1835, pp. 108-109.
8	上記の秘密協定	1834年 3月初旬	1964年	Ageron 1964		
9 AHG : H-27	デミシエルへの手紙					Desmichels 1835, pp. 108-109.
10	デミシエルとの手紙 50通 <sup>68)</sup>	1834年	1983年		Lettre de l'Emir Abd-El-Kader au general Desmichels	
11 AN : F-80-1671 *	陸軍省への手紙	1834年 5月11日				
12 *	総督への手紙	1834年 6月5日				Esquer 1924 <sup>69)</sup> , p. 614.
13 AHG : H-27	秘密協定がフランス国王によって批准されたものと主張	1834年 8月17日				
14 *	総督への手紙	1834年 9月29日				Esquer 1926, p. 27.
15 *	秘書ベン・デュランへの手紙	1834年 12月				Esquer 1926, p. 558.
16 *	総督への手紙	受領 1835年 1月25日				Esquer 1926, pp. 269-270.
17 *	総督への手紙	受領 1835年 2月14日				Esquer 1926, pp. 325-326.
18 *	総督への手紙	受領 1835年 4月30日				Esquer 1926, p. 434.
19 *	総督への手紙	1835年 6月6日				Esquer 1926, p. 485.
20 *	総督への手紙	1835年 6月17日				Esquer 1926, pp. 484-486.
21 *	総督への手紙	1835年 7月3日				Esquer 1926, p. 517.

67) 題名が明示されていないものは、整理番号を記入した。また\*はDanziger (1977)を参照されたい。

68) A. Zouzou, "Lettre de l'Emir Abd-El-Kader au général Desmichels", *Majallat-et-Tarikh*, 1er semestre 1983 (Karim Rouina, "Bibliographie raisonnée sur l'Emir Abdelkader", *Majallat et-Tarikh* 21, Alger : Centre National d'Études Historiques, 1986, p. 91).69) Gabriel Esquer (ed.), *Correspondance du général Voirol, commandant par intérim du corps d'occupation d'Afrique (1833-1834)*, Paris : Champion, 1924.

	題名	内容	執筆	出版	仏訳出版	仏語題名	備考
22	PRO: F.O. 52/40 *	英領事への手紙	1835年 9月22日		Temimi 1971, pp. 191-192.		
23	PRO: F.O.52/40	英国王への手紙	1836年 1月11日	1974年	Danziger 1974, pp. 59-61.		
24		フィギグの人々への ジハードの宣言	1836年 2月5日	1913年	1913年	<i>Une proclamation de l'Emir Abd-El-Kader aux habitants du Figuig en 1836.</i>	
25	AAE: <i>Correspondance politique-Maroc</i> , vol. 5 (1837-1840) *	仏領事への手紙	1837年 2月				
26	*	フェズの法学者にフ ランスとの関係に関 してのファトワーを 要請	1837年 3月27日	Muhammad b. 'Abd al-Qādir Tuhfa, 2007 (1903 1st ed.), 316-317.	<i>Archives marocaines</i> , vol. 11 (1907), pp. 118-120.	<i>Une Consultation juridique d'Abd El- Kader</i>	
27	AGGA: 2E4 *	ビュジョーへの手紙	1837年 5月5日		Emerit 2002, pp. 145-146.		
28	AHG: H-48 *	総督への手紙	1837年 5月初旬				
29	*	総督への手紙	1837年 5月10日				Yver 1924, pp. 65- 66.
30	*	ハイム・デュラン への手紙	1837年 5月17日				Yver 1924, p. 69.
31	<i>al-Mu'āhada Tāfna</i> *	仏との休戦協定	1837年 5月30日	1964年	1924年	<i>le traité de Tafna</i>	
32		上記の秘密協定	1837年 5月初旬	1951年			Emerit 1951, pp. 137 -138.
33	*	ビュジョーへの手紙	1837年 6月29日				Yver 1924, pp. 327- 328.
34	AHG: H-51 *	ブロッサール将軍 への手紙	1837年 7月10日				
35	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 7月26日		Emerit 2002, p. 147.		
36	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 8月10日		Emerit 2002, pp.147-148.		
37	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 8月17日				
38	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 8月末		Emerit 2002, p. 148.		
39	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 9月3日		Emerit 2002, p. 149.		
40	*	イタリア商人 Garavini への手紙	1837年 10月9日				<i>L'Afrique française</i> , vol. 1 (1838), p. 225.
41	AGGA: 2E4	ビュジョーへの手紙	1837年 10月10日		Emerit 2002, p. 149.		
42	*	部下 Habib Walad al-Muhur への手紙	1837年 8月				<i>Moniteur algérien</i> , 16 October 1837.
43	*	総督への手紙	1837年 12月				Yver 1924, pp. 134- 135.
44	*	総督への手紙	1838年 1月9日				
45	*	総督への手紙	受領 1838年 1月13日				Yver 1949 <sup>70)</sup> , pp. 182-183.

70) George Yver (ed.), *Correspondance du maréchal Clauzel, gouverneur général des possessions française dans le nord de l'Afrique (1835-1837)*, 2 vol., Paris: Larose, 1949-1950.

	題名	内容	執筆	出版	仏訳出版	仏語題名	備考
46	AHG : H-54 *	ラパテル将軍への手紙	1838年 2月4日				
47	AHG : H-54 *	陸軍省への手紙	1838年 2月14日				
48	*	総督への手紙	1838年 4月14日				Yver 1924, p. 329.
49	AGGA : 1-E-125-1 *	ラパテル将軍への手紙	1838年 4月17日				
50	*	al-Talib b. Jalun への手紙	1838年				Yver 1919 <sup>71)</sup> , pp. 93–99.
51		大使に持たせたフェズへの2通の手紙	1838年 8月8日、 9月1日	1919年			Yver 1919, pp. 93–98, 99–111.
52	A. M. G. Alg.cor. carton, no 60	総督への手紙 (レオン・ロッシュ記)	1839年 1月12日		Emerit 2002, pp. 188–194.		
53	AGGA : 2ES	フランス国王への手紙	1839年 3月2日		Emerit 2002, pp. 153–154.	Lettre d'Abd-el-Kader au roi Louis-Philippe	
54	AN : F-80-1673 *	総督への手紙	1839年 3月3日				
55	<i>Wishāh al-Katā'ib wa-Zīna al-Jaysh al-Ghālib / Shi'r al-Shaykh al-Hājj 'Abd al-Qādir wa-al-Hukm al-Sharī lil-Askar al-Muhammādī</i>	常備軍軍隊規則	1839年	1848年	1844年	<i>Organisation des réguliers d'Abd el-Kader / Poésies d'Abd-El-Kader: ses réglemens militaires</i>	
56	*	総督への手紙	1839年 11月3日				Yver 1924, p. 215.
57		マスカラ領事ドマとの書簡	1837–39年		1912年	<i>Correspondance du capitaine Daumas</i>	
58		ティジャーニー教団長への書簡	1837–39年	2001年	1997年、 Bessath 2001, pp. 366–367.	Lettre de l'Émir au chef des Tidjania	
59		捕虜の交換についての手紙	1838–40年				Suchet <sup>72)</sup> 1840
60	PRO : F. O., 3/43		1840年 4月12日	1971年	Temimi 1971, pp. 192–193.	Lettre d'AbdelKader au Gouvernement anglais	
61	PRO : F. O., 3/43		1841年 12月10日	1971年	Temimi 1971, pp. 193–195.	Lettre d'AbdelKader au Premier Ministre anglais	
62	B.A., Irada., <i>Hariciye</i> 820, liasse no 2		1841年 12月10日	1971年	Temimi 1971, pp. 195–202.	Lettre d'AbdelKader au Sultan Abdulmadjid	
63	B. A., Irada., <i>Hariciye</i> 820, liasse no 9		1841年 12月10日		Temimi 1971, pp. 203–204.	Lettre d'AbdelKader a Hamadan b. Othmen Khudja	
64	<i>Risāla al-A yān</i>	シャリーアの及ぶ地域への移住の必要性		Muhammad b. 'Abd al-Qādir Tuhfa, 2007 (1903 1st ed.)			
65	<i>al-Sīra al-Dhātīya</i>	自伝、アラブとイスラームに関して	1849(?)年	1983年	1995年	<i>L'émir Abdelkader: Autobiographie écrite en prison (France) en 1849 et publiée pour la première fois</i>	

71) George Yver, "Abd el Kader et le Maroc en 1838," *Revue africaine* vol. 60, pp. 93–111.

72) Abbé Suchet, Lettre du 10 septembre 1841 publiée, *Annales de la propagation de la foi* no. 81, mars, 1882, pp. 81–114.

題名	内容	執筆	出版	仏訳出版	仏語題名	備考
66	カトリック司教デュ ピュシュへの書簡	1848-9 年		1849年	<i>Abd el-Kader à Mgr Dupuch</i>	
67	アンボワーズ司教 への書簡	1848-52 年				
68	<i>al-Miqrāḍ al-Hādd li-Qat' Lisān Muntaqis Dīn al-Islām bi al-Bāṭil wa al-Ilhād</i>	イスラームの正当 性についての論争 1850年 頃	1972年			
69	アラブの馬に関す るコメント	1851年	1851年	1851年	<i>Les chevaux du Sahara et les moeurs du desert</i>	
70	ルイ・ナポレオン によって解放され た際の自筆の文書 の翻訳	1852年 10月30日	1892年			
71	<i>Dhikrā al-'Āqil wa-Tanbih al-Ghāfil</i>	思想書(理性、精 神、宗教) 1853- 4/5年		1858年	<i>Le livre d'Abd- el-Kader intitulé: Rappel à l'intelligent, avis à l'indifférent / Lettre aux Français</i>	
72	レセップスとの書簡		1863-82年	Lesseps, 1887		
73	<i>Husām al-Dīn</i>	棄教について	ダマス カス?			Étienne 1994 <sup>73)</sup> p. 433
74	レオン・ロッシュ との書簡	1848-83 年		1904年		
75	ドゥルーズ派ウラ マーたちへの書簡	1860年		1867年		
76	イマーム・シャー ミルへの手紙	1860年		Bessaih 2001, pp. 300-301		
77	アルジェ司教パ ヴィへの手紙	1862年 7月10/ 11日	1997年	Bessaih 2001, pp. 368-369.		
78	<i>Kitāb al-Mawāqif</i>	スーフイズム、思 想 1855- 1883年	1911年	1982年	<i>Le Livre des Haltes</i>	
79	詩	1855- 1883年		1983年	<i>Poèmes Métaphysiques</i>	
80	<i>Bughyat al-Ṭālib 'alā Tarīb al-Tajallī bi-Kulliyāt al-Marātib</i>	自己顕現について (スーフイズム)	?	2004年		
81	<i>Nuzha al-Khāṭir fī Qarīḍ al-Amīr 'Abd al-Qādir</i>	詩	?	18-年		
82	<i>Dīwān al-Amīr 'Abd al-Qādir al-Jazā'irī</i>	詩	?	1966年	<i>Poemes choisis (表題のみ仏語)</i>	
83	アブドゥルカー デイルの即興詩に ついて	?	1886年			

73) Bruno Étienne, *Abdelkader Isthme des isthmes : Barzakh al-barazikh*, Paris : Hachette, 1994.